提　言

『粋(イキ)に世界へ「福(ふく)井イズム」、未来の福井をデザインしよう』

～５０万人広域経済ゾーン構想　パートⅡ～

平成１１年１月

福　井　経　済　同　友　会

目　　次

はじめに …… 1

提言の骨子 …… 2

提　言

５０万人広域経済ゾーン構想　パートⅡ
「粋（イキ）に世界へ「福井（ふく）イズム」、未来の福井をデザインしよう」 …… 3

ビジョン

ゾーニングによる５０万人広域経済ビジョン
～「ふくいまちづくりグランドデザイン（たたき台）」～ …… １１
…

はじめに

私たち福井経済同友会では、平成１０年度の事業計画における重点課題のひとつとして、平成９年に発表した**提言：『２１世紀に光輝く「福井」の実現をめざして』～５０万人広域経済ゾーン構想**～の具体化の推進に取り組んでまいりました。

地域活性化研究部会を中心に、会員企業のスタッフを含むワーキングチーム「福井地域活性化研究委員会」を編成し、これまでに発表された数々の「まちづくり構想」も踏まえ、延べ１３回にわたる委員会やスタッフ会議を開催し、検討・討議を行いました。さらに、そこで検討された内容について、会員例会や公開フォーラムの場を通して、広く会員、学識経験者および一般市民の方々からのご意見やアイデアをいただき、**提言：『粋に世界へ「福井イズム」、未来の福井をデザインしよう』～５０万人広域経済ゾーン構想　パートⅡ**～として取りまとめました。

本提言は、２１世紀を目前に控え、国内外において社会経済構造やライフスタイルが大きく変化する中で、「地域の経営」という観点から福井を見直し、また、各地域の持ち味を活かしたゾーニングを行うことにより、集積効果を高めて地域の磁力アップを図り、日本海国土軸の地理的中心に位置する利点を活かして、次代に「福井」全体が中枢拠点地域として活性化することを意図するものであります。

提言の一つである住民と産学官による「県民まちづくり議会」が早期に組織され、そこにおいて英知を結集した「ふくいまちづくりグランドデザイン」が策定されるに際し、タタキ台として本提言が活用されることを期待します。

最後になりましたが、業務ご多用の中、本提言の策定にご尽力いただいた関係各位に心より感謝申しあげます。

平成１１年１月

代表幹事　岡　田　　章
代表幹事　三田村　紘二

提言の骨子

粋(イキ)に世界へ「福(ふく)井イズム」、未来の福井をデザインしよう

1．広域経済ビジョンの推進

1－1　５０万人の広域経済ゾーンを形成し、『新しい県都』に育てていこう

1－2　地域の特性・個性を活かし、『生活・文化の豊かな新県都』にしよう

1－3　公共交通機関を充実し、『往来のスムーズな新県都』にしよう

2．活性化拠点整備の推進

2－1　民間投資を誘発し、歩いて楽しい、にぎわいの『ふくい回廊』を創ろう

2－2　福井城跡を開放し、ゆとりと安らぎの『県民文化の森』を創ろう

2－3　県民の力を結集し、世界に誇れる『個性的な福井駅』を創ろう

3．住民･産学官連携の推進

3．　住民と産学官が連携し、一体となった『県民まちづくり議会』を創ろう

「福井イズム」とは、卓越した先見性と進取の気性に富んだ幕末期の先人の活躍でもわかるように、女性就労率日本一、社長輩出率日本一を誇る、福井人のもつチャレンジ精神をいいます。

この提言は、この「福井イズム」に磨きをかけて、新しい私たちの未来を、私たちの手でデザインし、地域の活性化・まちづくりを実践していこうとする決意の表明です。

現実の困難な諸問題に真正面から向き合い、中長期的な視点に立ち、確固としたビジョンを持って取り組み、２１世紀に光り輝く「福井」を実現していきましょう。

提　言

５０万人広域経済ゾーン構想　パートⅡ

「粋（イキ）に世界へ「福（ふく）井イズム」、未来の福井をデザインしよう」

1. 広域経済ビジョンの推進

1－1　５０万人の広域経済ゾーンを形成し、『新しい県都』に育てていこう

福井・鯖江・武生を中心とした地域は、地域全体をひとつの「新しい県都」として位置づけ、地域の発展に結びつけていくため、地域の内外との交流人口を増やし、その役割を果たしていけるよう、地域のみんなの手で育てていこう。

・広域経済化により、多様性を持った関西圏の一拠点『福井新県都』を創り、県下全域の活性化の先導役として、リーダーシップを発揮させる

地場産業を中心とした本地域の産業が、国際競争のなかで今後とも生き残っていくために、３市の多様な資源の融合と産学官の連携により地域の磁力をアップさせ、世界に誇れる魅力ある産業の振興を図る。また、各種都市機能を広域圏内で分担し合い、関西圏や中京圏などとの様々な交流を通じて地域全体の活性化を図り、あわせて福井県全体のインキュベーター役を果たし、嶺南、奥越、坂井地域など、県内全域の活性化につなげていく。

・交流･連携促進のために南北･東西の広域交流軸の強化、充実を図る

広域南北軸では日本海国土軸の一翼を担うため、特に北陸新幹線の整備を推進し、域外との広域的な交流・連携を促進する。また、広域東西軸では中部縦貫自動車道による観光交流及び中京との経済交流の強化、テクノポート福井と結ぶ地域高規格道路による海外との交流、及び近畿自動車道敦賀線による嶺南地域との連携を促進する。

域内南北軸については、広域経済ゾーンの大動脈を充実するために、丹南西縦貫道路福井外環状道路などの地域高規格道路の整備を推進する。また、東西軸では伝統工芸の盛んな地域をネットワークした「工芸の里軸」の強化を図り、交通や情報インフラの整備とあわせて、共通イベント等を通じた交流・連携を強化する。

・「新県都」の統一イメージを形成する

国道８号には統一した並木、サイン、カラーなどを使い、日野川や北国街道沿いなどの環境整備を３市連携して取り組むなど、「新県都」のアイデンティティのビジュアル化を進めるとともに、リレーイベントなどの実施により、統一イメージを形成する。

・新しい県庁は地方分権に対応してスリム化・オープン化を図り、新県都の中央寄りに移転し、県外、県下全域からの交通アクセス、情報アクセスの向上を図る

新県都の新しい県庁は、地方分権、住民参加などに対応した新たな組織づくりにより、スリム化、オープン化を行うとともに、Ｉ．Ｃ、高規格道路、ＪＲ、福井鉄道などの利用により、広域交通の結節点としての機能強化が図れる場所を選定して移転する。

１－２　地域の特性・個性を活かし、『生活・文化の豊かな新県都』にしよう

地域の個性化が求められるなか、広域ゾーンの多様な特性や個性を活かし、生活者の視点で、生活・文化の豊かさをより発揮させ、住み良い新県都を築いていこう。

・福井･鯖江･武生それぞれのコア・コンピタンス（役割・能力）を活かし、それぞれのゾーニングに基づき、関連施設の集積化・高度化をすすめる

地域内のそれぞれの特性を活かして、地域全体としての物語性を持たせたゾーニングを行い、関連する施設を集めて地域の魅力を高める。

＜例＞ゾーンの特色を『北イタリア』に例えれば

福井：ファッションデザインのまち　　;『ミラノ』のような

鯖江：職人、工芸のまち　　;『ヴェネチア』のような

武生：歴史、文化、ルネッサンスのまち;『フィレンツェ』のような

・福井･鯖江･武生の中心市街地は情報・交流拠点とし、ネットワーク化するとともに、県外や海外の人が来てみたくなるような、福井の魅力情報を発信し、交流の場を提供する

福井中心市街地は、広域ゾーンのホスピタリティを高めた「新価値創造交流ゾーン」、鯖江中心市街地は、デザイナーシップを発揮した「産業情報発信ゾーン」、武生中心市街地は、クリエーターシップによる「産業・文化交流ゾーン」として、それぞれの既存ストックを活かし、魅力ある情報を発信する。

・既存施設を活かしたゾーニングを行い、関連施設の集中立地を促して、特色のあるゾーンを形成させる

産業情報センター周辺及び福井大学周辺は、産学官の連携により、県内外の研究者が自由な雰囲気の中で最先端の研究を進める「学術先端技術ゾーン」とする。また、県産業会館周辺及び県立音楽堂周辺は、県民が自主的に学び、人づくりをすすめる「文化学習交流ゾーン」とし、県産業振興施設（サンドーム福井）周辺はもの・ことづくりをすすめる「参加連携ゾーン」とする。

・分散立地している公共施設の有効活用・相互利用を促進し、地域文化の振興を図る

図書館やスポーツ施設の地域間相互利用などについては、早急に対応できるものから実践していく。また、たとえば１０００人規模の会議が開催できるように、イベント会場、サブ会場、移動手段、アフターコンベンション、宿泊、などについて、地域内の各種施設を活用した有機的なネットワーク化を図り、地域連携事業を推進する。

・歴史・文化・伝統が親から子へと確実に伝承される地域づくり・人づくりを進める

歴史・文化・伝統などの優れた資源を活かし、北国街道などの歴史の道をつなげて、歴史の息づいているまちをつくる。「工芸の里軸」の強化により、域内の特色ある産業を育て、伝統技能の技がさえるまち、芸術性の高いまちをつくる。

・豊かな自然と田園居住環境を保全して、ゆとりと安心に満ちた地域づくりを進める

広域圏を取り囲む田園や丘陵地は、「自然健康交流ゾーン」として位置づける。自然を保全して、市街地を取り巻く自然豊かな景観を維持するとともに、自然と共生できる居住環境を確保し、身体や心の健康づくりの場として利用できるよう、ゆとりと安心に満ちた地域づくりを進める。

1-3　公共交通機関を充実し、『往来がスムーズな新県都』にしよう

高齢社会の地域間の連携・交流には公共交通の充実が望まれており、新県都は鉄道、バスなどの公共交通が南北軸を中心に整備されているため、この既存ストックを有効活用して、自由に往来できる新県都を目指していこう。

・公共交通と自家用車の共存を図り、人と環境にやさしい総合交通体系を確立する

鉄道やバスなどの公共交通と車を組み合わせたり、その時々に応じていろいろな交通

手段の利用が出来るような、車だけに頼らなくてもよい地域づくりを進める。郊外の鉄道駅に隣接して、パーク＆ライド用の駐車場や、サイクル＆ライド用の駐輪場を設けたり、ショッピングセンターや企業などの大規模駐車場を利用してパーク＆バスライドを試行し、公共交通のサービス向上とあわせて、地域の総合的な交通体系を確立する。

・鉄道・バス網の充実により、乗り換えのスムーズな公共交通ネットワークをつくる

駅がすべての交通手段とつながっていて、スムーズに乗り換えができるような交通結節点として整備し、また、ＪＲ・私鉄・バス相互のダイヤ調整、鉄道やバスの共通券・乗り換え券の発行など、いつでも手軽に乗れる、あるいは乗り換えられる利用者の立場に立った公共交通のネットワーク化を図る。

・高齢社会に対応して、人にやさしい交通環境を提供する。

低床路面電車・バス、福祉ミニバス、循環ミニバスなど、必要に応じて公的資金の投入も検討するとともに、使いやすさ、わかりやすさ、ダイヤの充実など、利用環境を含めた公共交通のバリアフリー化を推進する。

・福井･鯖江･武生の中心市街地は、公共交通の充実による利用圏域の拡大と利用者の増大を図る

特に、福井市中心部では全国でも数少ない路面電車を活かしたまちづくりを進め、将来は、利用者の利便性を高めるため、環状線としての整備が望まれる。

2．活性化拠点整備の推進

2－1　民間投資を誘発し、歩いて楽しい、にぎわいの『ふくい回廊』を創ろう

福井の情報を発信し、世界の情報を集約するサーバー役、広域経済ゾーン活性化のリーダー役を担う「新価値創造交流ゾーン」において、集中的な公共投資による活性化拠点整備を推進し、あわせて民間投資の誘発を図り、にぎわい空間を創っていこう。

・人が主役となり、にぎわい、くつろげる空間『ふくい回廊』をつくる

ぶらぶらまち歩きを楽しむ回廊・横丁・小路など回遊性のある界隈やモール、屋外イベント広場、若者が集まる広場、高齢者がくつろぐ広場、人が楽しむ様子がみえる店やまち、みんなの待ち合わせ場所、いろんな世代がそれぞれの楽しさを見つけられる街、『ふくい回廊』をつくる。

・集まった人が演じ、楽しめる、にぎわい創出の仕掛けをつくる

人が人を呼ぶ様々な仕掛けをつくり、新しいライフスタイルを提案するまちをつくる。例えば、秋の夜をライトアップされたウインドーデザインで楽しむ、休日や特別の日、冬の寒い日や平日の楽しみ方など、それぞれに応じた時の過ごし方を提案し、子供、若者、高齢者、それぞれのライフスタイルの中に新たに位置づけていく。

・都市機能の整備充実や商業者の新規立地誘導により、にぎわいと消費を楽しませるさまざまな「舞台」づくりを支援する

不動産に関わる税金の軽減などにより投資リスクを低減するなど、ベンチャービジネスや若い人のまちづくりを積極的に支援する。また、高付加価値商品を提供するような商業機能を充実させる。

・福井駅周辺事業は住民の視点で再チェックし、活性化のチャンスを広げていく

ビッグプロジェクトである福井駅周辺事業は、単なる都市基盤整備に終わらせないよう、利用者である住民の立場や、地域活性化の点から、官民連携して知恵を出し合いながら進め、民間投資を誘発し、その効果が周辺地域へも波及させるシステムをつくる。

2－2　福井城跡を開放し、ゆとりと安らぎの『県民文化の森』を創ろう

県民のイメージシンボルの一つである福井城跡を開放し、県民の文化拠点として、県民自らの手で創り上げていこう。

・将来、県庁などを移転させ、主要な建物は『県民文化の森』として再編し、県民の憩いと交流の空間にする

さまざまな文化活動（芸術･芸能文化･伝統文化･生活文化･食文化など）の拠点として、移転後の主要な建物は、例えば『平成明新館（文化の館）』に改装したり、オープンカレッジとして活用したり、常に県民文化が鑑賞できる郷土芸能常設館やミュージカル常設館にしたり、県民が自主運営する芸術・芸能練習スタジオやファッション工房にしたりする。当面は、休日や、夜間だけでも、ホールや「福の井」、駐車場、芝生の広場を含めて開放する。

・県民みんなで木を植え、お堀や足羽川などの水辺を取り込んだ都市の自然空間を演出し、「世界のふるさと福井」をデザインする

周囲の水辺空間と、街角に新たに設ける水辺とが一体となって、潤いのある都市空間を創り上げる。また、「県民文化の森」の建設費を県民から募り、空地の緑化など、美しいまち・緑豊かなまちづくりを積極的に進める。

・地域のコミュニティ･まつりを支える都心居住者の転入を図り、活気の中にゆとりと安らぎのあるまちをつくる

若者と老人が交歓できるまち、福祉のまちを、市民ボランティア、企業、行政のパートナーシップにより、利用者の立場で、グランドワークなどの手法（具体的な状況を想定しながらの実験・試行）により、活動しやすいまちを創り上げる。

また、居住者の話し合いによって造る福祉や環境に配慮した共同住宅（コーポラティブハウス）を積極的に建設し、中心市街地において都市環境と自然環境が調和した、住み良いまちづくりを進める。

2－3　県民の力を結集し、世界に誇れる『個性的な福井駅』を創ろう

福井県の玄関口として、もっとも重要な役割を担う「新しい福井駅」は、県民の知恵と工夫を結集して、地域のシンボルとして、駅舎、駅ビル、駅前広場、交通ターミナル、高架下施設が一体となった「個性的な福井駅」にしていこう。

・福井駅舎は新しい駅の機能を持たせた複合中核施設にする

福井県の玄関口として、他の地域や外国から訪れた人をもてなし、県内各地に案内するためのサービス機能、例えば、インフォメーションセンター、嶺南・奥越・坂井プラザ、エビ・カニ水族館など、福井の情報センター・サービスセンター・交流センターをつくる。東西自由通路や高架下には、農協・漁協と商店街・レストランとのタイアップにより、魚・野菜市場、海鮮レストランなど「福井の幸広場」を創る。

情報を生みだして発信し続け、若い人たちを集めるための拠点機能として、例えば、ファッションインダストリアル総合センター、インキュベーションセンターをつくる。また、生活・文化情報、交通・観光情報、街の情報を提供し、交流・交歓の場とする。

他の地域に先駆けた新しい価値を創造し、交流を活性化させる機能として、例えば、複合診療所（クリニックのデパート）、日本一のブックセンターをつくる。

・福井駅はすべての交通の乗換えが可能な総合交通ターミナルにする

周囲から人が集まりやすく、出掛けて行きやすい駅を目指し、乗り換え抵抗の少ない、すべての交通への乗換えが可能な交通結節点を形成する。自動車で、電車で、バスで、老人も、子供も、あらゆる人がスムーズに集まれるように、快適な移動を支援するための方法も考えながら、まちづくりを進める。

・ゆったりと休んでくつろげる空間を提供し、モニュメント・ベンチを設置して人の集まる駅前広場にする

広場などのゆとりの空間を、プロ、アマを問わずアーティストに開放し、エキコン（えきコンサート）、えきギャラリー、えきフォーラムなどが開催できる広場をつくる。

・親しみやすく使いやすい駅を、「福井新県都の顔」としてデザインする

地域の個性（アイデンティティ）を活かした、親しみやすく使いやすい駅を、「福井新県都の顔」としてデザインする。また、国際コンペなどを実施して、文化遺産として後世に残せるような、質の高い内容とシンボル性を持たせる。

・産業経済界がリーダーシップをとり、新駅舎・駅ビル建設に積極的な参画をおこなう

ＰＦＩ（民間活力を活用した社会資本整備）などにより、企業と県民の資金や知恵を総結集して、個性的で新しい福井駅を建設する。

3．住民･産学官連携の推進

3．住民と産学官が連携し、一体となった『県民まちづくり議会』を創ろう

恒久的なまちづくりに向けた、住民と産学官が連携した息の長い取り組みをはかるとともに、福井駅の整備については、タイミングを外さないよう早急に対応しよう。

・県民と経済界が主体となってまちづくり推進組織『県民まちづくり議会』をつくり、原点からのまちづくりを進め、『福井イズム』を先導する

『県民まちづくり議会』では、県民の賛同を得ながら、『ふくいまちづくりグランドデザイン』を作成し、住民･企業自らが確実に、継続的に実行していく。

（参考として、「ふくいまちづくりグランドデザイン（たたき台）」を添付する）

計画の硬直性を打破するために、百年の大計をたて、行政の既定計画であっても見直すべきものは見直し、修正した政策を提案する。

・住民･企業が率先して、まちづくり、景観づくりを実践し、行政の参加を求める

住民は、主体的なまちづくり活動、ボランティアの活躍などの身近な地域づくりを進め、企業は、メセナ、地域への企画参加など、金だけでなく知恵も出しながら、まちづくりを実践する。これに合わせて、行政においては「首長のリーダーシップが発揮できるまちづくり総括部局」を設けて支援窓口を一本化するとともに、インターネットなどあらゆる手段を使って積極的な情報開示を行い、意見交換の材料を提供し、住民同士あるいは住民との議論の活性化を図る。

・ひとがやさしい街、ホスピタリティのあるまち、高齢者にやさしいまちをみんなの声と手でつくる

住民自らの手で創り上げるために、住民も個人の家庭内だけの生活改善にとどまらず、地域のまちづくりに積極的に参加し、真の生活の豊かさを築き、一人一人のやる気を集める。女性も、子供も、高齢者も、それぞれの立場で、それぞれの場所で、まちづくりへ参加する。

・日本一住みやすい福井を体感し、その良さを次の世代に語り伝える

生涯教育や、学校教育に、まちづくり教育を取り入れ、実践する中で、子や孫など次の世代に残せる、夢を持てるまちを創る。

さあ、身近なところから、出来るところからやり始めよう。行動しよう。

ビジョン

ゾーニングによる50万人広域経済ビジョン

～「ふくいまちづくりグランドデザイン（たたき台）」～

1．広域経済ゾーンの全体構想

(1)広域経済ゾーンの必要性

国内外にわたる地域間競争を目前に「福井像」を積極的に内外へ発信し、域内・域外との交流人口を増やして地域の発展に結びつける必要がある。そこで、福井･鯖江･武生の国道 8 号を中心とした南北に広がるゾーンを設定し、機能分担と集積の効果を追求し魅力的で磁力のある地域づくりを推進する。すなわちこの「広域経済ゾーン」は、様々な交流と連携を通じて福井県の地域活性化を先導する地域と位置づけられる。

私たちは、この地域の望ましい将来像について、中長期的な視点を持って考えていきたい。

(2)広域経済ゾーンの基本方針

①活性化に当たっての視点

世界の中の福井

小さいながらも世界にきらりと光る存在感のあるまちとなる。人口や経済規模等による世界都市をめざすのではなく、以下の視点を重視して「質」的に世界に誇れるようなゾーンを目指す。

・交流と連携の推進

3 市がそれぞれの個性と得意分野を活かしつつ、互いに交流・連携し集積の効果を発揮するとともに、県内外ひいては国内外とも交流と連携を深め活性化を図る。

・生活者の視点の重視

生活者が満足するようなまちづくりや地域づくりを最優先する。住民が「住み続けたくなる」ことはもちろんのこと、訪問者も「また訪れたくなる。移り住みたくなる」ようなゾーンを目指す。産業面でも生活関連産業と呼べるような集積が本県にはありこの特徴を活かしていく。

・新産業やライフスタイルの創造と発信

新しい産業やライフスタイルを創造するとともに内外に情報発信していく。従来型の経済効率優先の成長型ではなく、生活のゆとりや充実が実感できる成熟型の発展を目指す。

②目標

・50万人が集い出会うゾーンであり、日本海国土軸上の中核都市として21世紀の世界に光り輝く存在となる。

・具体的目標：・賑わい創出　交流人口で20%アップ

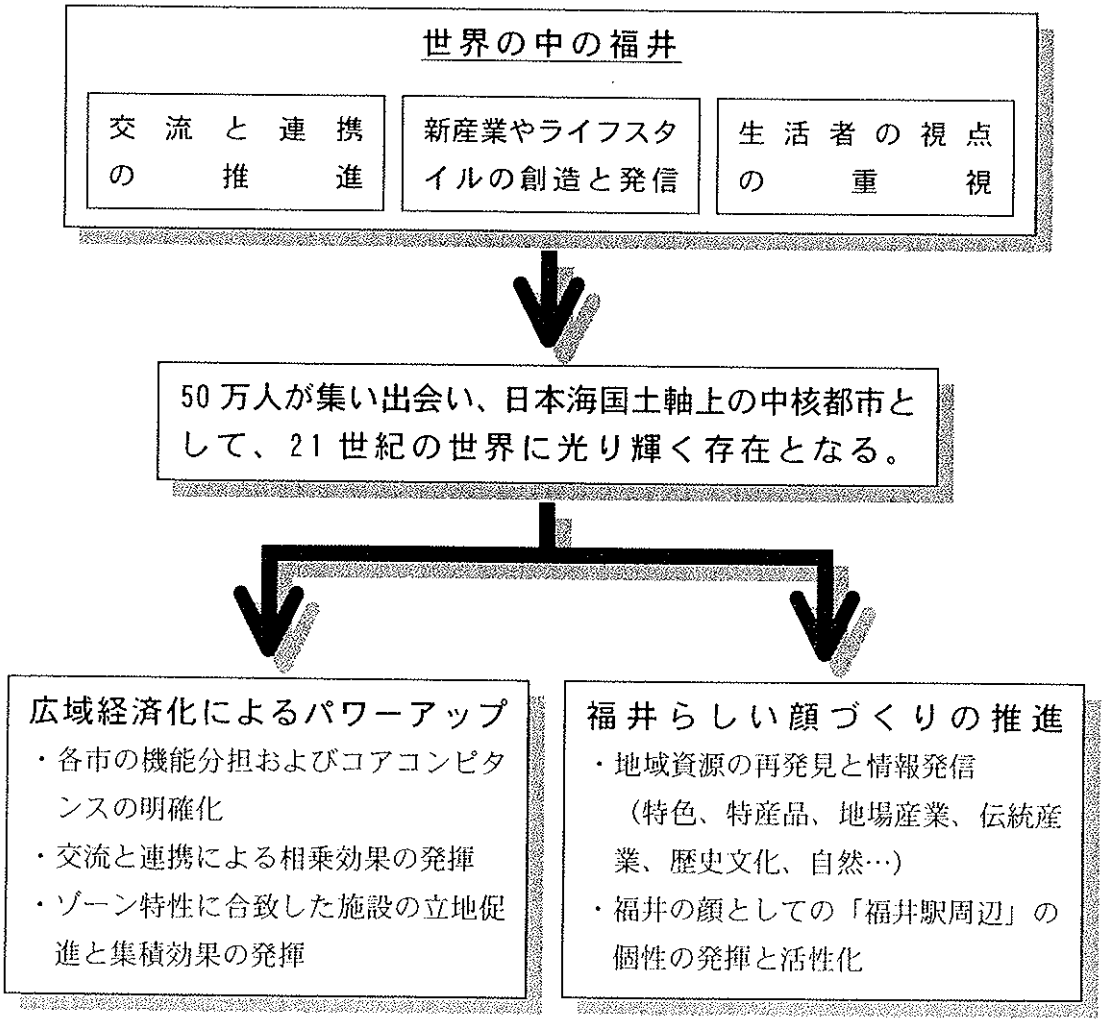
・地域産業の振興　世界に輝く産業の創出

・「生活満足度日本一」の実感体得

③まちづくりビジョン

広域経済ゾーンを形成するにあたっては、大きく2つの課題がある。第1点として、広域経済化による効果を最大化することが求められる。そのためには、福井・鯖江・武生の各市の役割分担を明確にするとともに、連携による相乗効果および規模の効果を最大限に発揮することが必要である。

第2点として、内外に誇れるような福井らしい顔づくりの推進が求められる。そのためには、ゾーン内の各種地域資源を再発見しそれを情報発信すること、および福井を象徴する顔づくりとして、JR福井駅周辺の個性の発揮と活性化が必要である。



2．活性化を先導するゾーン･軸の構想

(1)ゾーン・軸の必要性と考え方

「○　○　ゾーン」＝　有形無形の特徴的な資源を有しており、ゾーンとして整備することで、広域経済ゾーンを象徴するとともに活性化を先導する戦略的なモデルとなりうる地域。各々のゾーンの特性に合わせ、既存資源の有効活用を図るとともに、活性化に必要な新たな各種機能の誘致を図ることにより拠点性を高める。

「○　○　軸」＝　道路･鉄道等による人･物･情報の流れを表現した軸。広域経済ゾーン内バランスやゾーン間の連携に留意し設定する。ゾーン相互を結び付けるとともに、広域経済ゾーン外との交流の中心軸となる。軸に沿った形での道路･鉄道等の重点的な整備･充実を図る。

(2)ゾーン・軸の設定

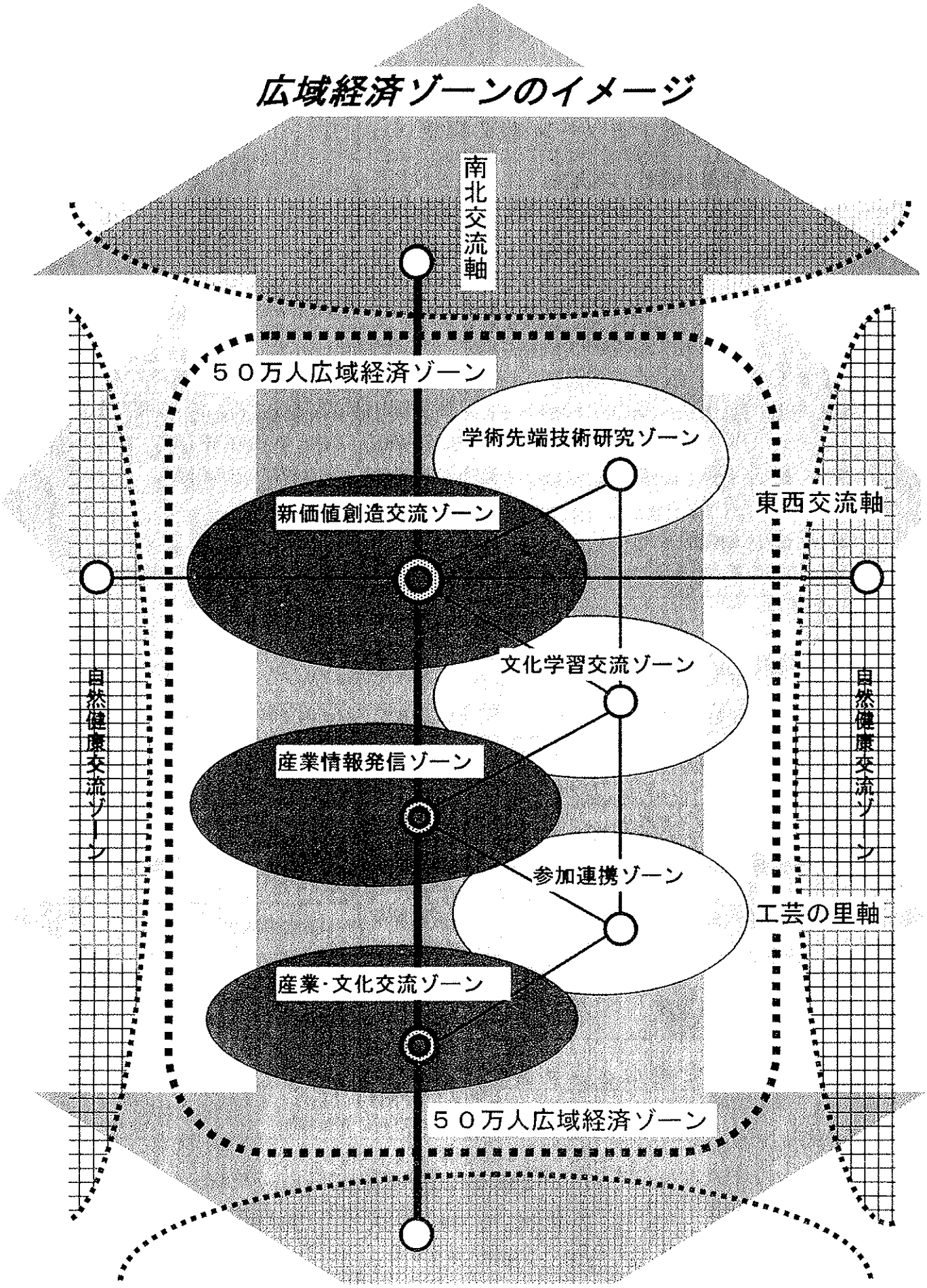
上記の考え方を下に、広域経済ゾーンを形成する６つのゾーンおよび３つの軸を設定する。

新価値創造交流ゾーン（ホスピタリティ）	JR 福井駅周辺
学術先端技術研究ゾーン（ひらめき）	産業情報センター周辺および福井大学周辺
文化学習交流ゾーン（ひとづくり）	県産業会館周辺
産業情報発信ゾーン（デザイナーシップ）	JR 鯖江駅周辺
参加連携ゾーン（もの･ことづくり）	県産業振興施設（サンドーム福井）周辺
産業･文化交流ゾーン（クリエーターシップ）	JR 武生駅周辺

南北交流軸	北陸新幹線、北陸本線、北陸自動車道、国道 8 号を束ねた南北の軸
東西交流軸	中部縦貫自動車道、国道 416 号、地域高規格道路などのゾーン北端を東西に伸びる軸
工芸の里軸	国道 417 号をはじめとする鯖江･武生市境を中心に東西に伸びる軸

これらの６つのゾーンは互いに有機的に交流・連携し、一体となって広域経済ゾーンを形成する。さらには、広域経済ゾーン周辺に広がる「自然健康交流ゾーン」を介し、３つの軸を通じてゾーン外とも交流・連携する。

広域経済ゾーンのイメージ



(3)各ゾーンの性格と役割

＜新価値創造交流（ホスピタリティ）ゾーン＞（JR 福井駅周辺）

・ゾーンのイメージ：ゆったりとしたオープンスペースとちょっときどった空間が、そこを訪れる人を特別な雰囲気にする。その中で、新しい価値観や夢が創造されそれが人を引き付け、その人がまた新価値を創造していく。

・既存主要施設：　県庁、県国際交流センター、フェニックスプラザ、百貨店、映画館、等

・導入すべき機能：高付加価値型商業機能、高度業務機能、都市型アミューズメント機能、文化学術機能、総合行政サービス機能、国際交流機能、コンベンション機能、情報発信機能、交通結節機能

・キーワード：　福井の顔、福井らしさ、新価値創造、交流と出会い、ターミナル性の向上、劇場都市、人が主役、ゆったりくつろぎ空間、水と緑、歩いて楽しい、都心居住、高齢化対応、もてなし、自由、発表、特別、オリジナリティ、未知の体験、発見、バーチャルリアリティ

＜学術先端技術（ひらめき）ゾーン＞（産業情報センター周辺および福井大学周辺）

・ゾーンのイメージ：緑豊かでオープンな雰囲気の中、県内外の研究者が自由に最先端の研究を進めている。

・既存主要施設：　産業情報センター、県工業技術センター、福井大学、福井医科大学、福井県立大学、福井工業大学、等

・導入すべき機能：学術機能、公設試験研究機関、民間研究開発施設、先端科学技術研究機能、産学官交流連携機能

・キーワード：　リーディングインダストリー、成長産業、ベンチャー、マッチング、インキュベーション、技術移転、公開・共同研究、公開講座、貸実験室、バイオテクノロジー、エネルギーと地球環境、ワイドエリアキャンパス、人材育成、インターンシップ制度

＜文化学習交流（ひとづくり）ゾーン＞（県産業会館周辺）

・ゾーンのイメージ：市民が自主的に学ぶ場所・機会、及び共に考える仲間が常に存在している。こういった学習や教育活動の延長で、市民は自らの地域を磨き、学び、つくっていく。

・既存主要施設：　県産業会館、県中小企業産業大学校、県生活学習館、県立音楽堂、等

・導入すべき機能：市民交流機能、文化・スポーツ機能、生涯学習機能

・キーワード：　市民講座、市民大学、カルチャーセンター、グループ間の交流、参加型まちづくり、官民連携と協働、ボランティア、NPO、サステイナブルコミュニティ、環境負荷の少ないライフスタイルの実践、少子高齢社会への対応

＜産業情報発信（デザイナーシップ）ゾーン＞（JR 鯖江駅周辺）

・ゾーンのイメージ：内外に積極的に情報発信すると共に形の見えるものづくりを進める。

・既存主要施設：　鯖江市嚮陽会館、鯖江市文化センター、めがね会館、等

・導入すべき機能：産業支援機能、異業種交流機能、マッチング機能、情報発信機能

・キーワード：　ものづくりの見直し、幅広い産業資材の提供、消費ニーズとの結合、研究開発力強化、福井ブランド、高品質

＜参加連携（もの･ことづくり）ゾーン＞（サンドーム福井周辺）

・ゾーンのイメージ：世界に開かれた魅力あるｲﾍﾞﾝﾄ環境を整備し、有名無名のｲﾍﾞﾝﾄを誘致する。これを通じて世界最先端のものに触れるとともに、市民自らが参加し連携の輪を広げていく。さらには周辺のものづくりとの連携も深める。

・既存主要施設：　県産業振興施設（サンドーム福井）、等

・導入すべき機能：国際交流機能、スポーツ文化機能、芸術文化機能

・キーワード：　世界体操選手権、フリーマーケット、産業見本市、スポーツと活性化、ボランティア

＜産業･文化交流（クリエーターシップ）ゾーン＞（JR 武生駅周辺）

・ゾーンのイメージ：生活に密着した産業を地域の文化として位置づけ、世代を超えた交流を促進する。

・既存主要施設：　センチュリープラザ、武生文化センター、等

・導入すべき機能：産業文化交流機能、情報発信機能

・キーワード：　産業の生活へのフィードバック、デザインと生活、地場産品の活用、ものづくりショールーム、伝統産業とハイテク産業の交流･融合

＜自然健康交流ゾーン＞

・ゾーンのイメージ：自然を保全して、市街地を取り巻く自然豊かな景観を維持するとともに、身体や心の健康づくりの場として利用する。

・既存主要施設：　越前海岸、丹生台地、東部丘陵地

・導入すべき機能：国土保全機能の充実（ソフトな機能としての後継者育成、保全技術の継承）

・キーワード：　いやしの場、ヒーリング、体験農林水産業、後継者育成、原風景、フィールドミュージアム、リレーイベント

（4）各軸の性格と役割

＜南北交流軸＞（北陸新幹線, 北陸本線, 北陸自動車道, 国道 8 号）

・既存の交通網を一層ダイナミックに活用し、人･物･情報があふれる広域経済ゾーンの大動脈とする。

・日本海国土軸の一翼を担い、広域的な交流・連携の主軸としての役割を強化する。特に、北陸新幹線による域外との交流・連携の強化を図る。

・丹南西縦貫道路、福井外環状道路の整備による域内の交流・連携の強化を図る。

・鉄道やバスなどの公共交通を充実させ、

＜東西交流軸＞（中部縦貫自動車道, 国道 416 号、地域高規格道路）

・学術先端技術研究ゾーンを中心に、東西の交流・連携の主軸とする。

・同ゾーンとテクノポート福井を福井港丸岡インター連絡道路など交通・情報インフラで結ぶことにより、産業活動と研究機能及び海外との交流・連携を強化し、特に産業面に大きな役割を果たす活性化の軸とする。

・中部縦貫自動車道を通じて、県内外の自然豊かな地域と結節することにより、特に観光面での交流・連携の強化を図る。また、近畿自動車道敦賀線による嶺南地域との連携を強化する。

＜工芸の里軸＞（国道 417 号）

・越前漆器や越前和紙、越前打刃物、越前焼といった伝統工芸をネットワークし、一層の活性化を図るためのシンボル的な軸とする。

・交通や情報インフラを整備するとともに、共通イベント等を通じての交流・連携の強化を図る。

３．新価値創造交流ゾーンの活性化構想

（１）活性化の必要性と課題

① 必要性：

５０万人広域経済ゾーンの活性化のためには、

・広域経済ゾーンの活性化をリードし、全域に波及させるリーダー役、

・福井の情報を発信し、世界の情報を集約する、情報発信集約機能をもったサーバー役、

として、広域ゾーンの中心核となる「新価値創造交流ゾーン」（福井駅周辺）の早急な整備が必要である。

また、福井県全体の活性化にとっても、広域経済ゾーンのもつ先導的な役割を強化するために不可欠である。

② 課　題：

・武生駅周辺、鯖江駅周辺とタイアップした交流機能の役割強化

・生活・文化の拠点となる地域の顔づくり

・交通結節機能の強化と公共交通機関の充実

高齢者等の交通弱者の生活利便性向上、車抑制による環境負荷の低減へ寄与

・高付加価値商品を提供する商業機能の充実

・新価値創造の原動力となるパワーの結集

（２）新価値創造交流ゾーンの役割

人が主役の空間を演出する。集まった人が演じて楽しめ、演じに来たくなる、にぎわい創出の仕掛けをつくる。その活動の中から新しい価値観や夢が生まれ、新価値創造の循環をおこす。

・福井らしさの中で特別な時間が過ごせる空間の提供

ちょっときどった、おしゃれな時間を過ごす。

食文化：シティホテル、高級レストラン（福井海の幸、福井山の幸）

衣文化：高感性ブティック

若者文化：自主運営、イベント

商空間：豊富な高付加価値型商業機能

・文化芸術の提供

福井の、世界の最先端の、古い、文化芸術を、演じ、見せる

イベント、ミュージアム、シアター

都市型アミューズメント機能、文化学術機能

・ゆったりくつろぎ空間の提供

水と緑にあふれたくつろげる街づくり
福井らしさが語れる街づくり
歩いて楽しいテーマ性のある街並みづくり
夜も安心して集まれる街、広場

・福井の顔をつくる

人の流れを作り、福井の見せたいところをきちっと見せる場づくり
福井らしさをデザインする

・もてなしの心（インフォメーション・交流）

情報発信による福井（駅前、県内、北陸）のアピール
県民が楽しめる話題、情報の提供
生活・文化情報、交通・観光案内
MAP、街の情報、イベント情報（域内全域を案内する）
コンベンション、国際交流

・みんなにやさしい交通手段の提供

集まりやすい、散らばりやすい交通手段を、利用者主体で見直す
選択の多様性、総合性、随時性

・人が住み、活動する組織がある街

人が住み、その生活を支える買い物、遊び、福祉が備わっている

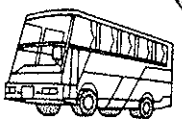
新価値創造交流ゾーンの活性化イメージ

新価値創造交流ゾーンの役割：
人が主役の空間を演出する
集まった人が演じて楽しめ、演じに来たくなる、にぎわい創出の仕掛けをつくる。

・文化芸術の提供
福井の、世界の最先端の、古い、文化芸術を、演じ、見せる
　イベント、ミュージアム、シアター
　都市型アミューズメント機能、文化機能

・福井らしさの中で特別な時間が過ごせる商空間の提供
ちょっときどった、おしゃれな時間を過ごす。
食文化：シティホテル、高級レストラン（福井海の幸、福井山の幸）
衣文化：高感性ブティック
若者文化：自主運営、イベント
商空間：豊富な高付加価値商品

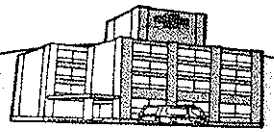
・ゆったりくつろぎ空間の提供
水と緑にあふれたくつろげる街づくり
福井らしさが語れる街づくり
歩いて楽しいテーマ性のある街並み
夜も安心して集まれる街、広場



・みんなにやさしい交通手段の提供
集まりやすい、散らばりやすい交通手段を、利用者主体で見直す
選択の多様性、総合性、随時性

・もてなしの心（ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ）
情報発信による福井のアピール
県民が楽しめる話題、情報の提供
生活・文化情報、交通・観光情報
街の情報、交流、コンベンション

・福井の顔をつくる
人の流れを作り、福井の見せたいところをきちっと見せる場づくり
福井らしさをデザインする



・人が住み、活動する組織がある街
人が住み、その生活を支える買い物、遊び、福祉が備わっている

（３）複合中核施設としての福井駅の整備

「新価値創造交流ゾーン」の中でも、とりわけ重要な役割を担っているのが、連続立体交差事業に伴って再整備される、新しい福井駅である。福井県の玄関口として、複合機能を持たせた中核施設として整備する。

・福井の顔をつくる：

地域の個性（アイデンティティ）を活かした、親しみやすく使いやすい駅を、「福井新県都の顔」としてデザインする。また、国際コンペなどを実施して、文化遺産として後世に残せるような、質の高い内容とシンボル性を持たせる。

・もてなしのこころ（インフォメーション）：

福井県の玄関口として、外の地域や外国から訪れた人をもてなし、県内各地に案内するためのサービス機能を強化する。たとえば、インフォメーションセンター、嶺南・奥越・坂井プラザ、エビ・カニ水族館など、都市の情報センター、県民サービスセンター、交流センターとする。また、生活・文化情報、交通・観光情報、街の情報を提供し、交流・交歓の場とする。

・みんなにやさしい交通：

乗り換え抵抗を軽減したすべての交通の乗換えが可能な、交通結節点を形成する。車で、電車で、バスで、老人も、子供も、あらゆる人がスムーズに集まれるように、また、公共交通機関を使うならそこへ行けばよいというような、新しい総合交通ターミナル駅をつくる。そのためには、ＪＲ（新幹線・在来線）、私鉄（福井鉄道・京福電鉄）、バス、タクシーなど、中心市街地に集まるすべての公共交通機関が、一カ所に組み込まれている必要がある。

・福井らしさの中で特別な時間がすごせる商空間：

食文化、衣文化などの福井らしい生活・文化情報を提供する。たとえば、商店街・レストランと農協・漁協とのタイアップにより、東西自由通路や高架下に魚・野菜市場、海鮮レストランなど「福井の幸広場」を創る。

また、他の地域に先駆けた新しい価値を創造して、交流を活性化させるための機能として、たとえば、複合診療所（クリニックのデパート）、日本一のブックセンターを配置する。

・ゆったりくつろぎ空間の提供：

県民のオアシス広場、水と緑、遊び空間など、ゆったりと休んでくつろげる空間を提供し、モニュメント・ベンチを設置して人の集まる駅前広場にする。

・文化芸術の提供：

情報を生みだして発信し続け、若い人たちを集めるための拠点機能として、たとえば、ファッションインダストリアル総合センター、インキュベーションセンターを設け、プロ、アマを問わずアーティストに開放し、エキコン、えきギャラリー、えきフォーラムを開催する。